令和６年度

事　業　報　告　書

自　令和　６年　４月　１日
至　令和　７年　３月３１日

社会福祉法人　海南市社会福祉協議会

目　次

令和６年度 重点事業の成果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅰ．法人運営事業

1　法人運営事業①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
2　法人運営事業②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
3　法人運営事業③・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
4　法人運営事業④・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Ⅱ．地域福祉事業

1　福祉団体への活動助成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
2　民生委員児童委員等関係事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
3　用具等貸与事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
4　広報事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
5　ボランティア育成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
6　災害ボランティア運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
7　善意銀行運営事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
8　心配ごと相談事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
9　福祉教育事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
10　ボランティアセンター活動事業、ボランティア活動支援事業・・・・・・・ 24
11　ふれあい・いきいきサロン支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
12　地域福祉活動計画策定事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
13　福祉総合相談事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
14　生活困窮者自立相談支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
15　生活困窮者家計改善支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
16　地域福祉活動支援事業(生活支援体制整備事業等)・・・・・・・・・・・・ 36
17　子どもの居場所づくり支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
18　認知症見守り・啓発事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
19　福祉サービス利用援助事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
20　中核機関（権利擁護センター）設置準備事業・・・・・・・・・・・・・・・ 44
21　生活資金貸付事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
22　生活福祉資金貸付事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

Ⅲ．在宅福祉事業

1　いきいき介護予防事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47

Ⅳ．その他の関連事業

1　共同募金運動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
2　赤十字活動資金事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50

令和6年度　重点事業の成果

★重点事業１　地域福祉活動支援事業（生活支援体制整備事業等）の推進

海南市全域の課題解決を協議する第１層協議体会議では、各所属団体の活動状況や社会貢献活動の状況などを共有し、連携及び協働により新たな地域資源（助け合い活動等）開発に向け協議を行いました。

また、第２層協議体では、各地域の定期的な協議に参加し、身近な地域での課題を共有するとともに、課題解決のために地域でできることを検討しました。（別表）

このほか、協議体に関する打ち合わせを５６回、地域支援のための訪問を２３３回実施するなど、対話を重視し、きめ細やかな支援が行えるよう取り組みました。

加えて、各地域の第２層協議体では、課題解決に向けた地域福祉活動として、高齢者等の見守り活動や、世代や属性を超え誰もが参加できる居場所づくり、地域を深く知るまちあるきなど、地域の特性に応じた多様な取組が展開されています。

海南市全域の課題となる“高齢者等の外出・移動”については、外出支援ボランティアグループを支援し、１０月から外出支援活動を開始しました。北野上地区をモデル地区に設定し、月２回、自宅からスーパーまでの買物支援と、不定期でのお出かけ支援を実施しました。その際、使用する車両については、社会福祉法人からの貸与を受けるなど、地域活動と様々な団体等の協働実践を進めました。（写真①）

さらに、海南市全域で“居場所づくり”への関心も高まっていることから、こども食堂（地域食堂）の立ち上げ支援にも重点的に取り組み、令和６年度に２か所が新規で設立され、その後も複数箇所の立ち上げが予定されています。（写真②、③）

居場所づくりは、外出や社会参加の機会のほか、多様な人との交流の機会になっており、健康維持や介護予防にもつながっています。

別表【第１層・第２層協議体会議（定例会）回数】※協議体設置に向けた座談会含む

第１層 （市全体）	第２層		
	西部圏域 （黒江船尾・日方・内海・冷水・大野）	東部圏域 （亀川・巽・北野上・中野上・南野上）	南部圏域 （下津・大東・大崎・塩津・加茂第一・加茂第二・仁義）
３回	４６回	１９回	３６回

①外出支援のようす

②かえる食堂（中野上）

③にこにこ食堂（大東・下津）

★重点事業２　福祉総合相談事業の充実

生活困窮者をはじめ、様々な困りごとの相談に対し、本人の置かれた環境や状況に即した適切な支援が行えるよう取り組んでいますが、近年、老老・認認介護、ヤングケアラー、8050 問題など、福祉分野における課題が複雑化・多様化しており、相談事案の原因も単一ではなく、複数の課題が存在することが多くなっていることから、相談者の属性、世代、相談内容等を問わない、包括的でかつ専門的な支援体制が求められています。

このような中、令和７年３月に権利擁護センター「ここあす」を開設しました。「ここあす」は、認知症や障害があっても住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、権利や財産を守るための支援を行う相談窓口で、様々な不安や困りごとを抱えた方やその家族に対し、弁護士・司法書士・社会福祉士の三士会をはじめとした専門職や高齢者・障がい者相談支援機関等と連携しながら支援を行います。

また、「生活困窮者支援」「生活福祉資金」「権利擁護」などの相談ケースを一元的に管理し、ケース会議などにおける行政や専門職との意見交換等により、情報共有を強化して適切な支援に繋ぐとともに、どの事業にも属さない狭間のケースに対しては、1 機関だけでなく、関係機関のネットワークの中で対応することで適切な支援に繋げます。

★重点事業３　災害ボランティア運営事業の強化

被災後の迅速かつ円滑な復旧・復興を進めるための災害ボランティアセンター（以下「災害ＶＣ」という。）の設置運営を検証する令和６年度広域・同時多発災害対応訓練を行いました。

訓練では、社協職員のみならず、地域住民が運営スタッフとして各セクションに参画することで、災害ＶＣの基盤強化を図りました。

また、災害ボランティア登録者や応援協定を締結している企業、防災士、海南高校などの協力・参加を得ることで、関係団体との連携強化にも努めました。

訓練終了後には、振り返りを行うため、訓練参加者を対象にアンケートを実施し、今後の災害ＶＣ運営の参考としました。

その他、災害ボランティア登録者の拡大については、広報紙やホームページを活用し登録制度の周知に努めるとともに、訓練参加者にも呼びかけを行いました。

Ⅰ．法人運営事業	１　法人運営事業①
事業費総額	３４８，４７４円
財　　源	市補助金、社協会費、一般財源
事業概要	・法人の会務の円滑な運営を図るため、以下の会議を開催します。 　理事会、評議員会、監事会及び評議員選任・解任委員会 ・社会福祉の推進に多年にわたり活動を続け、その功績が顕著である方に対して、社会福祉協議会会長より表彰又は感謝の意を表し、その功績と労苦に報いるとともに、社会福祉の増進に資することを目的に、社会福祉功労者表彰式を開催します。
実施内容・実績	●会議の開催 【理事会】 第１回：令和６年６月７日（出席理事８名） 議案：副会長の選任、令和５年度事業報告、令和５年度法人全体決算、令和６年度第１次補正法人全体収支予算、評議員選任候補者の推薦、評議員会の招集 報告：会長の職務執行状況 第２回：令和７年１月１４日（出席理事１２名） 議案：定款の一部改正、事務局規程の一部改正、令和６年度第２次補正法人全体収支予算、評議員会の招集 報告：会長の職務執行状況 第３回：令和７年３月１２日（出席理事１３名） 議案：令和７年度事業計画、令和７年度法人全体収支予算、評議員会の招集 【評議員会】 第１回：令和６年６月２４日（出席評議員１５名） 議案：令和５年度事業報告、令和５年度法人全体決算、令和６年度第１次補正法人全体収支予算、理事の選任 第２回：令和７年１月２７日（出席評議員１３名） 議案：定款の一部改正、令和６年度第２次補正法人全体収支予算 第３回：令和７年３月２６日（出席評議員１５名） 議案：令和７年度事業計画、令和７年度法人全体収支予算 【監事会】 令和６年５月２２日 監査：令和５年度事業報告及び法人全体決算 【評議員選任・解任委員会】 令和６年６月７日（出席委員５名） 議案：評議員の選任

<table>
<tr><td></td><td>●令和６年度海南市社会福祉功労者表彰式
<table>
<tr><td>開 催 日</td><td>令和６年１０月２３日</td></tr>
<tr><td>会　　場</td><td>海南 nobinos　ノビノスホール</td></tr>
<tr><td>被表彰者</td><td>市社協会長表彰
民生委員・児童委員功労者　５名
社会福祉関係団体役員功労者　３名
社会福祉協議会職員功労者　１名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜主な様子＞　　海南市社会福祉功労者表彰式

＜参考資料＞

○令和６年度和歌山県社会福祉功労者表彰式

開 催 日	令和６年１０月１０日
会　　場	県民交流プラザ和歌山ビッグ愛
本市被表彰者	県知事感謝 福祉ボランティア功労者　１団体 県社協会長表彰 ボランティア功労者　１団体

<table>
<tr><td>Ⅰ．法人運営事業</td><td>２　法人運営事業②</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>２７８，８６６円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>社協会費、一般財源</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・社会福祉協議会職員の福祉意識を醸成するための研修等を開催するほか、職責に応じた研修会や県社会福祉協議会が主催する市町村社会福祉協議会役職員研修会に参加します。
・社会福祉協議会会員の拡大、特に企業・団体・施設等の加入促進を図るため、社会福祉協議会の活動や会員制度の趣旨、会費の使途等の周知に努めます。
・地域福祉活動の財源確保のため、共同募金をはじめ、国、県、県社会福祉協議会、民間福祉財団等の助成金を活用します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●内部研修会の開催
◇権利擁護センターについて
<table>
<tr><td>開催日</td><td>令和６年１１月５日・１１月８日</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>海南保健福祉センター</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>延べ１７名</td></tr>
<tr><td>内　容</td><td>新たに受託した事業の目的や内容について各職員が理解するとともに、対面による研修を通じて、職員同士の情報交換や意見交換を促進し、チームワークを強化する</td></tr>
</table>
●研修会への参加
◇市町村社協職員基礎講座（全６回）
<table>
<tr><td>実施日</td><td>令和６年５月１３日・５月２０日・５月２７日・
６月　３　日・６月１０日・６月１７日</td></tr>
<tr><td>方　法</td><td>オンライン</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>延べ２２名</td></tr>
<tr><td>内　容</td><td>社協の基本的な理解と今日的に求められている社協の役割を中心にした、社協職員を支えるための講座</td></tr>
<tr><td>主　催</td><td>一般社団法人Ｗｅｌｌｂｅ　Ｄｅｓｉｇｎ</td></tr>
</table>
◇ファシリテーション研修
<table>
<tr><td>実施日</td><td>令和６年５月１５日</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>県民交流プラザ和歌山ビッグ愛</td></tr>
<tr><td>参加者</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>内　容</td><td>課題解決のための効果的な会議の進め方や多職種連携に必要な知識やスキルの習得</td></tr>
<tr><td>主　催</td><td>和歌山県社会福祉協議会（福祉人材センター）</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

◇福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程【初任者研修】

実施日	令和６年７月３０日～７月３１日
会　場	県民交流プラザ和歌山ビッグ愛
参加者	１名
内　容	福祉施設等に勤務する新任職員として、役割を遂行するための基本を学ぶ
主　催	和歌山県社会福祉協議会（福祉人材センター）

◇成年後見制度研修会

実施日	令和６年１１月１１日
会　場	海南ｎｏｂｉｎｏｓ
参加者	９名
内　容	意思決定支援を考え、他市の中核機関の取組を学んだうえで本協議会が運営することとなる権利擁護センターについて周知する
主　催	海南市（高齢介護課）

◇令和６年度市町村社協役職員研修会・県地域福祉推進フォーラム

実施日	令和７年１月３０日
会　場	勤労福祉会館プラザホープ
参加者	５名
内　容	各業務課題検討会の取組報告及び地域共生社会の実現に向けた施策が進められる中で、今もこれからも住み慣れた地域で幸せな暮らしを送れるよう、その人の生活に向き合う活動者の活動を紐解く
主　催	和歌山県社会福祉協議会

●社会福祉協議会会員の募集

自治会や民生委員児童委員協議会、企業、団体等の協力を得て、社会福祉協議会会員の募集をおこないました。

社協会費の必要性や活用内容を広く周知するため、前年度の活用内容を紹介するチラシを作成し、更なる会員拡大に努めました。

また振込みによる納入方法の案内を自治会に配布するとともに、ホームページに納入のお願いを掲載して加入促進を図りました。

協力が得られていない自治会には電話連絡をするなど、会費納入に対する協力依頼をおこなうとともに、特別会員の増加に向け、新たな企業・団体に特別会費の納入をお願いしました。

特別会員として協力が得られた企業・団体については、チラシ、広報紙で

<table>
<tr><td></td><td>紹介しました。
◇社協会費の内訳実績
<table><tr><th>区　分</th><th>金　額</th></tr><tr><td>一般会費（一口当たり　400 円）</td><td>４，５０５，９３２円</td></tr><tr><td>賛助会費（一口当たり 1,000 円）</td><td>２００，０００円</td></tr><tr><td>特別会費（一口当たり 5,000 円）</td><td>１８５，０００円</td></tr><tr><td>合　　計</td><td>４，８９０，９３２円</td></tr></table>
<table><tr><th>予算額</th><th>達成率</th></tr><tr><td>５，６００，０００円</td><td>８７．３％</td></tr></table>
●地域福祉活動の財源確保
和歌山県社会福祉協議会によるボランティア活動交流普及事業助成金（１９０，０００円）及び市町村社協活動支援事業助成金（２３４，０００円）を、それぞれ地域活動支援や地域福祉活動計画の策定に活用しました。</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり
事業名：職員の福祉意識の醸成、社会福祉協議会の新規会員募集、民間財源等の活用の検討</td></tr>
</table>

＜主な様子＞

内部研修会

＜参考資料＞

年　度	一般会費	賛助会費	特別会費	合　計	予算額	達成率
令和５年度	4,799,166 円	218,000 円	170,000 円	5,187,166 円	5,750,000 円	90.2%
令和４年度	4,894,223 円	246,000 円	155,000 円	5,295,223 円	5,750,000 円	92.1%

Ⅰ．法人運営事業	３　法人運営事業③
事業費総額	―
財　　源	―
事業概要	・災害時に重要な事業の継続や早期復旧のための対策を速やかに検討できるよう、事業継続計画を策定します。 ・災害発生時に迅速かつ的確に被災者の支援活動ができるよう災害時応援協定を締結します。
実施内容・実績	●早期復旧のための対策を速やかに検討できるよう、初動マニュアルに基づいて災害時行動計画を策定しました。また、災害時に重要な事業を継続できるよう、事業継続計画（ＢＣＰ）を策定しました。 ●大規模災害発生時や災害ボランティアセンターにおける支援活動に対して、円滑な協力体制を築くことを目的に、災害時の応援協定を締結しました。また、協定先には令和６年度広域・同時多発災害対応訓練に参加いただくなど、連携強化に努めました。 【協定先】株式会社　大希　　【協定締結日】令和６年４月１日
地域福祉 活動計画	基本目標３：安心・安全な支え合いのまちづくり 事業名：災害時行動計画の策定、事業継続計画（ＢＣＰ）の策定、災害時応援協定の締結

＜主な様子＞

株式会社大希との協定

Ⅰ．法人運営事業	４　法人運営事業④
事業費総額	―
財　　源	―
事業概要	・寄附者から預かった寄附金を地域福祉の推進のために活用します。指定（「交通遺児のために」等）により預かった寄附金は指定先に配分します。
実施内容・実績	●令和６年度の一般寄附金は３７３，２２３円でした。また、指定寄附金はありませんでした。 ●指定寄附金「交通遺児のために」については、毎年中学生以下を対象に調査を実施し、対象者には一人当たり３０，０００円を支給することとなっていますが、今年度も対象者が無かったため前年度からの繰越金は累計で２９０，０００円となっています。
地域福祉 活動計画	計画外

＜参考資料＞

年　度	一般寄附金	指定寄附金
令和５年度	５０１，７４６円	０円
令和４年度	１９１，３９８円	０円

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１　福祉団体への活動助成</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>３４０，９０３円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>共募配分金</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・社会福祉関係団体が行う社会福祉活動に対し、助成金を交付することにより、当該団体を育成・支援するとともに、地域の社会福祉活動の活性化を図ります。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>令和６年度社会福祉関係団体助成金を下記の８団体へ交付しました。
<table>
<tr><th>団　体　名</th><th>交　付　額</th></tr>
<tr><td>海南市老人クラブ連合会</td><td>９０，０００円</td></tr>
<tr><td>海南市身体障害者連盟</td><td>２８，０４３円</td></tr>
<tr><td>海南市障害児者父母の会</td><td>８０，０００円</td></tr>
<tr><td>海南たんぽぽの会</td><td>３０，０００円</td></tr>
<tr><td>手話サークル「青空」</td><td>３０，０００円</td></tr>
<tr><td>紀の国断酒会友綱</td><td>１０，０００円</td></tr>
<tr><td>海南市更生保護女性会</td><td>４０，０００円</td></tr>
<tr><td>紀西保護司会海南分会</td><td>３０，０００円</td></tr>
<tr><td>合　　計</td><td>３３８，０４３円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　度	交付団体数	交付総額
令和５年度	８団体	４０７，１９７円
令和４年度	８団体	５０６，５９０円

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>２　民生委員児童委員等関係事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>１２３，１４０円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>共募配分金</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・民生委員児童委員協議会活動を支援し助成を行うとともに、民生委員・児童委員等の互助と共励を基盤として、活動の充実振興を図ることを目的として、全国民生委員互助共励事業に係る事務を行います。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●民生委員児童委員協議会活動を支援するため助成を行いました。

●民生委員互助共励事業の給付内容は以下のとおりです。
<table>
<tr><th>種　　別</th><th>件　　数</th></tr>
<tr><td>一 般 傷 病</td><td>２件</td></tr>
<tr><td>退 任 慰 労</td><td>２件</td></tr>
<tr><td>計</td><td>４件</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　度	種　　別	件　　数	計
令和５年度	一 般 傷 病	７件	１１件
	災 害 見 舞	３件	
	退 任 慰 労	１件	
令和４年度	一 般 傷 病	８件	１１件
	一 般 死 亡	２件	
	配偶者死亡	１件	

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>３　用具等貸与事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>８９，０４５円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>共募配分金、その他（利用料）</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・高齢者や障害者等の日常生活での負担とその家族の介護に対する負担の軽減を図るとともに、自治会や学校等の車いす体験及び防災研修会等の開催を支援するため、車いすを貸出します。
・チャイルドシート等の使用を促進し、幼児の生命又は身体に対する危害を防止するため、チャイルドシート等を貸出します。
・住民の交流及び健康増進を図るため、グラウンド・ゴルフ用具を貸出します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>ア　車いすの貸出し
<table><tr><td>貸出先</td><td>貸出件数</td><td>貸出台数</td></tr><tr><td>個　　人</td><td>４９件</td><td>４９台</td></tr><tr><td>団　　体</td><td>６件</td><td>７台</td></tr></table>
イ　チャイルドシート等の貸出し
<table><tr><td>品　　名</td><td>貸出件数</td><td>貸出台数</td></tr><tr><td>チャイルドシート</td><td>１４件</td><td>１４台</td></tr><tr><td>ジュニアシート</td><td>３件</td><td>３台</td></tr></table>
ウ　グラウンド・ゴルフ用具の貸出し
<table><tr><td>品　　名</td><td>貸出件数</td></tr><tr><td>グラウンド・ゴルフ用具</td><td>９件</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　度	車いす	チャイルドシート	ジュニアシート	グラウンド・ゴルフ用具
令和５年度	３７件	７件	３件	６件
令和４年度	３４件	１０件	３件	７件

Ⅱ．地域福祉事業	４　広報事業
事業費総額	２，２３５，６９５円
財　　源	共募配分金、社協会費
事業概要	・社会福祉協議会の事業や活動について、住民の方々に幅広く知っていただくため、広報紙の毎月発行とホームページを随時更新するとともに、地域や企業、学生などそれぞれの目線で分かりやすいよう地域福祉に関する取り組みなどの情報発信を行います。 ・広報に関する研修への参加に加え、他社協を含め、幅広く行政などの広報紙から見せ方等を研究するなど広報ノウハウや職員の広報意識の向上を図ります。
実施内容・実績	●広報紙の発行 毎月発行する広報紙「福祉かいなん」を幅広い世代に手に取ってもらえるよう、親しみやすいタイトルの定例記事を掲載するなど紙面構成を工夫し、自治会の協力のもと、市内各戸に配布しました。また、市内のオークワ２店舗、松源３店舗に加え、とれたて広場でも配架を開始しました。 ●ホームページの運営 社協の取り組みや地域活動の状況等を投稿したほか、各種募集案内などの情報発信を行いました。（ホームページ訪問者数　１０，６０４名） ●ＳＮＳを活用した情報発信 情報拡散性のある Facebook を活用し、ホームページと連動して社協の取り組みや地域活動の状況等の情報発信を行いました。 ●高校・大学での情報発信 海南高校、和歌山信愛大学及び和歌山大学において、社協の取り組みについての情報発信や、災害ボランティアセンター設置運営訓練への参加の呼びかけ等を行いました。 ●リーフレットの配布 学校及び団体・社会福祉法人等への訪問時や福祉教育事業、夏のボランティア体験月間事業などの実施時に、社協の取り組み等をまとめたリーフレットを配布しました。 ●研修会への参加 広報意識の向上と専門的なノウハウを身につけるため、より伝わりやすい広報紙面の作成方法やＳＮＳの効果的な活用方法、写真の撮り方などを学ぶ広報研修会に参加し、その内容を職員間で共有しました。
地域福祉 活動計画	基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり 事業名：広報事業、社会福祉協議会の取り組みの見える化、職員の広報意識の向上と広報ノウハウの取得

〈参考資料〉

年　　度	ホームページ訪問者数
令和５年度	２５，３７７名※
令和４年度	９，４９３名

※災害ボランティアセンター
特設ページ開設による増加

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>５　ボランティア育成事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>５９，５５５円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>共募配分金</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・小学生及び中学生のボランティア活動へのきっかけづくりとして、様々なボランティア活動を体験する夏のボランティア体験月間事業を実施します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>ボランティア活動へのきっかけづくりとして、小学生・中学生が、夏休み期間を利用し、様々なボランティア活動を体験することを目的に、夏のボランティア体験月間事業を実施しました。
期　間：令和６年７月２０日～８月１７日
対　象：市内在住または在学の小学生及び中学生
参加者：延べ９２名（小学生４１名、中学生５１名）
プログラム数：１９（内１件は感染症蔓延のため中止）
<table>
<tr><th>プログラム名</th><th></th><th>場　　所</th><th>参加人数</th></tr>
<tr><td rowspan="6">施設訪問ボランティア</td><td>①</td><td>うらら</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>②</td><td>南風園</td><td>中止</td></tr>
<tr><td>③</td><td>笑楽</td><td>６名</td></tr>
<tr><td>④</td><td>笑楽</td><td>６名</td></tr>
<tr><td>⑤</td><td>ひだまり</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>⑥</td><td>ひだまり</td><td>２名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">イベントボランティア</td><td>⑦</td><td>大野だがしカフェ</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>⑧</td><td>きうちこども食堂</td><td>７名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">レクリエーションボランティア</td><td>⑨</td><td>日方地区</td><td>４名</td></tr>
<tr><td>⑩</td><td>巽地区</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>⑪</td><td>下津地区</td><td>４名</td></tr>
<tr><td rowspan="8">サロンボランティア</td><td>⑫</td><td>みんなのカフェ</td><td>６名</td></tr>
<tr><td>⑬</td><td>みんなのカフェ</td><td>６名</td></tr>
<tr><td>⑭</td><td>小中サロン</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>⑮</td><td>サロンすみれ</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>⑯</td><td>阪東いきいきサロン</td><td>４名</td></tr>
<tr><td>⑰</td><td>加茂郷いきいきサロン</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>⑱</td><td>歌声サロン四季の会</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>折り紙ボランティア</td><td>⑲</td><td>海南保健福祉センター</td><td>９名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜主な様子＞

サロンボランティア（阪東いきいきサロン）

イベントボランティア（きうちこども食堂）

＜参考資料＞

年　度	実施プログラム数	延べ参加者数
令和５年度	１６	１０８名（小学生５１名、中学生５７名）
令和４年度	６	４０名（小学生１８名、中学生２２名）

Ⅱ．地域福祉事業	６　災害ボランティア運営事業
事業費総額	７０２，２４３円
財　　源	共募配分金、社協会費、災害ボランティア積立金、その他（預金利息）
事業概要	・災害ボランティア活動が迅速かつ円滑に実施できるよう、海南市や関係団体等と連携した災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施するとともに、災害ボランティア活動の基盤強化に努めます。 ・災害ボランティアの事前登録を呼びかけるとともに、登録者に対して防災士資格取得費用助成制度の活用を促します。 ・職員の防災対応能力の向上を図るため、研修会への参加や訓練等を実施します。 ・被災地より要請があれば支援活動を行います。
実施内容・実績	●広域同時多発災害対応訓練（災害ボランティアセンター設置運営訓練） 令和７年２月２１日、災害ボランティアセンターにおける対応協議訓練を実施し、開設の手順や開設後の対応などの机上訓練を実施しました。 令和７年２月２２日～２３日、風水害による広範囲な被害を想定し、県内各社協が被災地支援の流れを確認しながら訓練を進めました。また、海南保健福祉センターに本所、下津保健福祉センターにサテライトを設置し、それぞれで災害ボランティアセンターの設置手順や運営体制を確認し、各業務の流れを検討しました。 また、来年度に県内社協で導入予定の業務管理ツールを活用し、ボランティア受付や支援ニーズの管理、活動報告のデジタル化を試みました。 駆けつけボランティア役の参加者は、災害ボランティアセンターの機能を体験するとともに、令和５年６月豪雨災害の被災者宅への聞き取り調査や、防災倉庫での資機材棚卸し作業などの実践的な活動に取り組みました。 ●防災スクール 令和６年１１月５日、海南高校において２年生を対象に開催された防災スクールにブース出展を行いました。 歩行が困難な高齢者等の避難方法を検証するとともに、避難時に自分たちに何ができるかを考えるため車イス体験を行いました。 ●災害ボランティア登録 広報紙やホームページで周知を図るとともに、災害ボランティアセンター設置運営訓練参加者に登録を呼びかけ、新たに７名が登録されました。 （登録者５７名） ●防災士資格取得費用助成制度 災害ボランティア登録者のうち防災士資格を取得した２名に対し、資格取得費用を助成しました。 ●研修会への参加

<table>
<tr>
<td></td>
<td>近畿弁護士会連合会主催の人権擁護大会シンポジウム（紀北プレ企画）に参加し、県内弁護士会の方々との関係強化に努めるとともに災害ボランティアに関する知識を深め、災害時にも生かせるつながりづくりに努めました。

●海南市災害ボランティアセンター運営報告
令和５年度の豪雨災害で体験した災害ボランティアセンター運営の経験を各所で報告しました。
活動報告先は次のとおりです。
<table>
<tr><th>期　日</th><th>対　象</th></tr>
<tr><td>令和６年８月３日</td><td>近畿弁護士会連合会人権擁護大会シンポジウム紀北プレ企画参加者</td></tr>
<tr><td>令和６年１０月７日</td><td>令和６年度いきいきシニアリーダーカレッジ「田辺校」参加者</td></tr>
<tr><td>令和６年１１月７日</td><td>和歌山大学学生</td></tr>
</table>
●検討会への参加
県社会福祉協議会主催の災害時の社協活動検討会に参加し、県内の防災活動者らとの連携強化に努めるとともに災害ボランティアセンターで使用する業務管理ツールに関する知識を深めました。</td>
</tr>
<tr>
<td>地域福祉
活動計画</td>
<td>基本目標３：安心・安全な支え合いのまちづくり
事業名：防災対応能力向上のための職員研修及び訓練の実施、災害ボランティア登録制度の充実、災害ボランティア研修及び活動訓練の実施、防災士資格取得補助制度の創設、災害ボランティアセンター設置運営事業、災害ボランティア活動の基盤強化</td>
</tr>
</table>

＜主な様子＞

広域同時多発災害対応訓練

＜参考資料＞

年　度	災害ボランティア登録者数
令和５年度	５０名
令和４年度	３６名

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>７　善意銀行運営事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>９，５１５，９２４円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>善意銀行預託金、一般財源</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・住民福祉の増進に寄与することを目的に、市民や企業・団体等から善意の金品の預託を受けるとともに、預託された善意の預託金を善意銀行運営委員会の審議を経て、必要としている団体等に払い出します。
・災害で被災された方に災害見舞金の支給や生活困窮者等への緊急かつ一時的な援助を行います。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●預託金品
（任意預託金）　１６件　　３１５，８３７円
（指定預託金）　２２件　　３１４，３８２円（こども食堂に）
（指定預託品）　２０件　　米、食料品など（こども食堂に）

●払出し
<table><tr><th>団　体　名</th><th>内　　容</th><th>払出金額</th></tr><tr><td>給食ボランティア　わかば会</td><td>冷蔵庫（551ℓ）</td><td>199,762 円</td></tr><tr><td>冒険シャボン玉研究所</td><td>LED パーライト</td><td>267,000 円</td></tr><tr><td>社会福祉法人和歌山県福祉事業団
養護老人ホーム　白寿荘</td><td>スポットエアコン２台</td><td>251,394 円</td></tr><tr><td>社会福祉法人ふじの会
五月山こども園</td><td>抗菌アカデミー
ジョイントマット</td><td>280,500 円</td></tr></table>（任意預託金）　４件　９９８，６５６円
（指定預託金）　２２件　３１４，３８２円
６か所のこども食堂に届けました。
（指定預託品）　２０件　米、食料品など
６か所のこども食堂に届けました。

●生活困窮世帯に食料品等を渡すため、１９，４２５円を支出しました。</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり
事業名：善意銀行</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

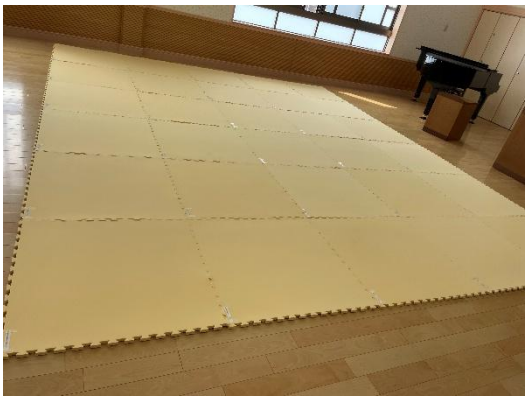
年　度	任意預託金		任意預託金払出し	
	件　　数	金　　額	件　　数	金　　額
令和５年度	２１件	１６７，１４４円	５件	８９２，９２９円
令和４年度	２１件	３２１，２５０円	４件	７９９，３３６円

○給食ボランティアわかば会

○冒険シャボン玉研究所

○社会福祉法人和歌山県福祉事業団
　養護老人ホーム　白寿荘

○社会福祉法人ふじの会
　五月山こども園



<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>８　心配ごと相談事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>２００，２５０円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>社協会費</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・市民の身近な相談窓口としての心配ごと相談所を開設し、日常生活上の相談や行政相談など、個人の心配ごとに対し助言や援助を行うとともに、専門的な知識が必要な事案については専門機関を斡旋するなど、その解決に向けて支援する。
・海南市報や社協広報紙、ホームページに掲載するなど、事業の周知に努めます。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●相談所運営状況
<table>
<tr><td rowspan="2">相談日時・場所</td><td>毎週金曜（祝日等を除く）13：00～16：00
海南保健福祉センター</td></tr>
<tr><td>毎月 10 日、25 日 13：00～16：00
（土曜、日曜、祝日の場合は翌平日）
下津保健福祉センター</td></tr>
<tr><td>相　談　員</td><td>民生委員１６名・行政相談委員３名</td></tr>
<tr><td>開 設 日 数</td><td>６６日</td></tr>
<tr><td>相談利用者数</td><td>延べ４３名（男１６名・女２７名）</td></tr>
<tr><td>相談総時間数</td><td>２７時間２５分</td></tr>
</table>
・心配ごと相談所の周知を図るため、市報や広報紙、ホームページに掲載しました。</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり
事業名：心配ごと相談事業</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

相談内容	1 生計	2 年金	3 職業・生業	4 住宅	5 家族	6 結婚	7 離婚	8 健康・保健・衛生	9 医療	10 人権・法律	11 財産	12 事故	13 児童福祉・母子保健	14 教育・青少年	15 障害者児福祉	16 母子福祉・父子福祉	17 高齢者福祉	18 苦情	19 その他	合計
取扱件数	1	1	0	5	11	0	1	0	2	4	9	0	0	0	1	0	4	4	7	50

年　　度	開設日数	相談利用者数
令和５年度	６６日	延べ５８名
令和４年度	６８日	延べ４９名

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>９　福祉教育事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>４４，４２１円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>社協会費</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・まちに住む様々な人が、普段の生活課題や福祉課題に気づき、ノーマライゼーションの考えに基づき行動できる福祉の心を育むことを目的に、学校や地域等と連携した福祉教育事業を実施します。
・学校や地域が主体となって継続的に取り組むことができるようプログラムの見直しを行うとともに、新しいプログラムの作成に取り組みます。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●申請のあった小学校及び中学校に職員を派遣し、福祉教育に関する授業を実施しました。
<table>
<tr><th></th><th>学校名</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td rowspan="8">小学校</td><td>日方</td><td>車いす体験、地域を知ろう（地域との交流）</td></tr>
<tr><td>内海</td><td>アイマスク体験、高齢者疑似体験、地域を知ろう（地域との交流）</td></tr>
<tr><td>亀川</td><td>むかしのくらし（地域との交流）</td></tr>
<tr><td>北野上</td><td>高齢者疑似体験</td></tr>
<tr><td>中野上</td><td>高齢者疑似体験、車いす体験</td></tr>
<tr><td>南野上</td><td>高齢者疑似体験、車いす体験</td></tr>
<tr><td>大東</td><td>アイマスク体験、親子車いす体験</td></tr>
<tr><td>加茂川</td><td>親子車いす体験</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中学校</td><td>第三</td><td>福祉防災学習、ボッチャ体験、様々な人の立場に立って考える車いすバスケットボール体験</td></tr>
<tr><td>亀川</td><td>バリアフリーとユニバーサルデザイン、施設・サロン等の訪問を通じた高齢者理解、車いすバスケットボール体験</td></tr>
<tr><td>下津第一</td><td>アイマスク体験、視覚障がい者との交流、車いす体験、福祉防災学習、バリアフリーとユニバーサルデザイン、ボッチャ体験</td></tr>
<tr><td>下津第二</td><td>ボッチャ体験（様々な人の立場になって考える）、聴覚障がい者との交流、車いすバスケットボール体験</td></tr>
</table>
●学校が主体となって実施できるよう、希望する内容の相談や講師との調整、福祉用具や学習資料の貸出・提供を行いました。
<table>
<tr><th></th><th>学校名</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">小学校</td><td>黒江</td><td>点字体験、手話体験</td></tr>
<tr><td>日方</td><td>アイマスク体験、手話体験</td></tr>
<tr><td>内海</td><td>手話体験</td></tr>
<tr><td>大野</td><td>点字体験、手話体験</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

	<table><tr><td></td><td>学校名</td><td>内　容</td></tr><tr><td rowspan="4">小学校</td><td>亀川</td><td>アイマスク体験</td></tr><tr><td>巽</td><td>点字体験、車いす体験</td></tr><tr><td>北野上</td><td>車いす体験</td></tr><tr><td>加茂川</td><td>手話体験</td></tr><tr><td rowspan="6">中学校</td><td>第三</td><td>アイマスク体験</td></tr><tr><td>亀川</td><td>アイマスク体験</td></tr><tr><td>巽</td><td>高齢者疑似体験</td></tr><tr><td>東海南</td><td>車いす体験、高齢者疑似体験</td></tr><tr><td>下津第一</td><td>地域を知ろう</td></tr><tr><td>下津第二</td><td>福祉防災学習</td></tr></table> ●新しいプログラムづくり 亀川中学校の２年生を対象に、地域の高齢者施設やふれあい・いきいきサロンへの訪問や、訪問先の様子や認知症の方との接し方を学び、訪問先の人と一緒に楽しめるレクリエーションを考案するなどの事前学習・訪問準備を通じた高齢者理解のプログラムを行いました。 また、下津第二中学校の１年生を対象に、下津町内の企業、寺、神社、農家、歴史に携わる方から話を聞き、さらに深堀したいことや関連した関心のあることなどを自ら調べ、まとめをパワーポイントで発表する地域学習のプログラムを行いました。
地域福祉 活動計画	基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり 事業名：福祉教育の推進、新しい福祉教育のプログラムづくり

＜主な様子＞

施設・サロン等の訪問を通じた
地域との交流（亀川中学校）

地域学習（下津第二中学校）

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１０　ボランティアセンター活動事業、ボランティア活動支援事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>１１，６７３，９９３円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>市補助金、共募配分金、社協会費、一般財源、その他（利用料等）</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・社会福祉協議会に登録されているボランティアへの活動助成金の交付、保険料の助成、給食・配食ボランティアへの食材費助成などにより、ボランティア活動を支援します。
・ボランティア募集情報等をホームページへ掲載するほか、ボランティア活動に関する地域ニーズの把握や発掘を進め、マッチング機能の強化を図ります。
・企業や団体等のボランティア活動が地域の社会貢献につながるよう、地域ニーズに基づいた具体的なボランティアプログラムを提示します。
・ボランティア養成講座等を開催するとともに、ボランティア登録者増を図るほか、ボランティア連絡協議会と連携した事業を実施します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●ボランティア活動の支援及び育成
１.ボランティアへの活動費等の支援
地域福祉の向上とボランティア活動の拡充及び促進を図るため、申請のあったボランティアグループ１９団体、個人ボランティア３名にボランティア活動支援事業助成金を交付しました。
（交付額４０５，０００円）
食事サービスを提供するボランティアグループに対して、材料費等の支援を行いました。
<table>
<tr><th>グループ名</th><th>活動延べ人数</th><th>配食総数</th><th>実施回数</th></tr>
<tr><td>給食ボランティアわかば会</td><td>２４３名</td><td>９４１食</td><td>９回</td></tr>
<tr><td>大野地区配食ボランティア</td><td>４４名</td><td>２２６食</td><td>１１回</td></tr>
</table>
２.ボランティア活動保険への加入促進
ボランティア活動中に起こる様々な事故に対する備えとして、ボランティア活動保険への加入に努めるとともに、社会福祉協議会に登録されたボランティアでボランティア活動保険の基本プランに加入された６０３名の保険料の一部を負担しました。

●ボランティアの相談、登録及び斡旋
前年度に比べ登録グループ数は７グループ、実登録者数は６７名それぞれ増加しました。
<table>
<tr><td>1.相談件数</td><td>３９件</td></tr>
<tr><td>2.登録グループ数</td><td>４７グループ</td></tr>
<tr><td>3.実登録者数</td><td>７０１名</td></tr>
<tr><td>うち新規登録</td><td>１３５名</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

●ボランティア情報の提供

広報紙やホームページ等を通じてボランティアの募集状況やボランティアグループの活動紹介などの情報提供を行いました。また、市内のボランティア活動をパンフレットにまとめ、公民館や社会福祉法人、企業等を訪問し、広報啓発に努めました。

●ボランティアルームの開設

海南保健福祉センター３階において、ボランティア相互の情報共有や交流の場としてのボランティアルームを開設しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用回数	3	1	2	1	1	4	1	2	2	5	2	4	28
機器使用回数	6	0	7	6	7	8	5	8	3	7	15	9	81
延人数	12	5	12	5	5	23	24	7	12	25	20	24	174

●外出支援ボランティア運転者講習会

空き時間を活用して、買い物等外出に課題のある方々の支援を行う外出支援ボランティアを養成する運転者講習会を実施しました。

日　程：令和７年３月９日
参加者：１０名
内　容：移動サービス・ボランティア送迎の理解
接遇と介助・見守り・ボランティア送迎の運転
リスクへの備えと対応・運転マナーの理解
運転実技説明、外出支援ボランティアの現状
講　師　関西ＳＴＳ連絡会

●ボランティア連絡協議会との連携

・海南市ボランティア連絡協議会総会の開催（１回）
・海南市ボランティア連絡協議会理事会の開催（２回）
・赤い羽根共同募金「街頭募金」
日　程：令和６年１０月１日
参加者：１１名
募金額：６，３０３円
・ボランティア視察研修兼交流会
日　程：令和６年１２月１７日
参加者：１３名
内　容：和歌山県ボランティア連絡協議会「令和６年度第４回ボランティア活動情報交流会 クリスマス会」

	・炊き出し訓練 日　程：令和７年２月２３日 参加者：１１名 内　容：令和６年度広域・同時多発災害対応訓練における海南市災害ボランティアセンター設置運営訓練に伴う炊き出しの提供 ●社会貢献的ボランティアプログラムづくり 企業や団体等に様々な分野のボランティア活動の情報を提供できるよう、地域のニーズや様々な団体の活動ニーズのヒアリングを行うとともに、ニーズに応じた社会貢献的ボランティアプログラムの作成に取り組みました。
地域福祉 活動計画	基本目標３：安心・安全な支え合いのまちづくり 事業名：ボランティアセンター活動事業、新しい社会貢献的ボランティアプログラムづくり

＜主な様子＞

外出支援ボランティア運転者講習会

炊き出し訓練

＜参考資料＞

年　　度	相談件数	登録グループ数	実登録者数
令和５年度	３７件	４０グループ	６３４名
令和４年度	２５件	３５グループ	６１４名

Ⅱ．地域福祉事業	１１　ふれあい・いきいきサロン支援事業
事業費総額	１０，１９６，７２９円
財　　源	市補助金、社協会費
事業概要	・地域住民の孤立感の解消、地域の見守り、健康づくりを目的として、身近な地域の人々が気軽に集まり、会話や体操などを楽しみながら仲間づくりができるよう支援を行います。 ・サロン運営者等への情報提供や相談ができる関係づくり及び設立や運営の推進を目的にサロン交流会を開催します。

実施内容・実績

●市内２２か所のサロンへの運営支援のほか、活動費や設立費用等を助成しました。（助成額９３０，４０６円）

地　区	サロン名	主な活動場所	実施回数
日　方	陽だまりサロン	日方東部児童会館	２４回
	みんなのカフェ	海南駅前地区集会所	４６回
内　海	マダムサロン	内海東部地区集会所	２３回
冷　水	喜楽会	冷水集会所	１０回
大　野	サニー井田サロン	サニータウン内民家	１１回
	小中サロン	内海東部地区集会所	２３回
亀　川	クローバーサロン（新規）	岡田地区集会所	１０回
	かめっこサロン	亀川公民館	６回
	いこらカフェかめがわ（新規）	亀川公民館	１０回
	PINCORO LIFE サロン	つつじヶ丘自治会館	１２回
巽	阪東いきいきサロン	重根西部地区集会所	９回
	サロンぼたん	下村地区集会所	１０回
	たのしい会（再開）	大谷児童会館	１１回
	宮橋いきいきサロン	宮橋地区集会所	１０回
北野上	サロンつどい（新規）	高津児童会館	１２回
中野上	サロンすみれ	中野上公民館	１２回
南野上	ひや水なかよしサロン	ひや水地区集会所	１２回
	いきいきサロン九品寺	九品寺地区集会所	１１回
下　津	歌声サロン四季の会	光輪寺	５回
	新田いきいきサロン	新田児童館	１２回

	サロン濱中	上公民館	１１回
大　東	加茂郷いきいきサロン	加茂郷公民館	６回

●活動を休止していた１か所のサロンに、再開に向けて継続した相談支援を行った結果、再開に至りました。

地　区	サロン名	主な活動場所
巽	たのしい会	大谷児童会館

●サロンの運営者やこれから始めようと検討されている方を対象に、サロン交流会を開催しました。参加者体験型をテーマとして、講師による体操や、各サロン及びボランティアによる「手作りワークショップ」を行い、参加者同士の交流を深めるとともに、運営者には新たな運営方法に関する情報提供を行い、検討者にはサロン設立等の推進を図りました。
（参加者３９名：運営者３８名・検討者１名）
また、交流会を機に、各サロン運営者が互いに見学に行くなど、つながるきっかけとなりました。

地域福祉 活動計画	基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり 事業名：ふれあい・いきいきサロン支援事業

＜主な様子＞

みんなのカフェ

サロン交流会

＜参考資料＞

年　度	サロン数	助成額
令和５年度	１８か所	６９５，０００円
令和４年度	１５か所	５５１，６７３円

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１２　地域福祉活動計画策定事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>３，４１３，０８３円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>県社協補助金、社協会費、一般財源</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・第２次地域福祉活動計画の事業の実施状況を精査するとともに、市民、学識経験者や地域福祉関係者等で構成する地域福祉活動計画策定検討会を開催し、行政と連携を図りながら「地域福祉活動計画」を策定します。
・社協のあり方、ビジョンを明確にし、今後の事業展開や人員体制などについて長期的な視点で検討します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>・計画策定にあたり、これまでの地域福祉施策を振り返り、課題を確認するとともに、市民アンケート調査、地域福祉懇談会等を実施し、本市を取り巻く地域課題を整理しました。
・上記地域課題、及び４回にわたり開催した地域福祉活動計画策定検討会における意見聴取、検討結果を踏まえ、第３次海南市地域福祉活動計画を策定しました。
・本計画では、これまで蓄積した地域福祉基盤をもとに「海南市版の包括的な支援体制づくり」を進めるものとし、「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に行えるよう取り組みます。
【策定過程】<table><tr><th>年月日</th><th>内容等</th></tr><tr><td>令和６年６月４日</td><td>第１回　計画策定検討会
計画策定の趣旨と策定方針について　外</td></tr><tr><td>令和６年
６月 17 日～７月 19 日</td><td>地域福祉に関するこどもアンケート調査
対象　市内小学５年・中学２年　回答 578 名</td></tr><tr><td>令和６年
７月２日～７月 16 日</td><td>地域福祉に関するアンケート調査
対象　市内在住 18 歳以上　回答 1,111 名</td></tr><tr><td>令和６年
７月 25 日～８月 27 日</td><td>地域福祉懇談会
市内７地域ごとに開催　参加者　計 188 名</td></tr><tr><td>令和６年 10 月４日</td><td>第２回　計画策定検討会
アンケート調査結果を踏まえた課題分析　外</td></tr><tr><td>令和６年 12 月 23 日</td><td>第３回　計画策定検討会
計画（素案）についての検討　外</td></tr><tr><td>令和７年
１月８日～２月５日</td><td>パブリックコメントの実施</td></tr><tr><td>令和７年３月３日</td><td>第４回　計画策定検討会
計画（最終案）についての検討　外</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１３　福祉総合相談事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>―</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>―</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・行政や関係機関、ＮＰＯ法人等との連携を図りながら、支援を必要とする方に必要な情報や福祉サービスの提供へ結び付けていくことができるよう、相談支援体制の充実を図るとともに、総合相談に関する職員研修の実施や専門研修への参加により、コーディネーション力の向上を図ります。
・福祉情報に触れる機会が少ない方に対し必要な情報を届けるため、地域の福祉関係機関や専門職を通じて社会福祉協議会の相談窓口につながるよう周知するとともに、アウトリーチによりＳＯＳを出すことができない方の把握に努めます。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●相談受付状況
<table><tr><td>相談件数</td><td>５９件</td></tr></table>
●相談内容内訳
<table><tr><td>ボランティア関連</td><td>３９件</td></tr><tr><td>地域福祉関連（サロン・協議体・こども食堂）</td><td>８件</td></tr><tr><td>生活困窮関連</td><td>１件</td></tr><tr><td>募金、寄附金関連</td><td>２件</td></tr><tr><td>その他</td><td>９件</td></tr></table>
●他機関との連携
<table><tr><td>福祉・医療</td><td>２件</td></tr><tr><td>行政</td><td>２件</td></tr><tr><td>民生委員児童委員協議会</td><td>０件</td></tr><tr><td>地域活動（ボランティア・協議体・こども食堂）</td><td>２３件</td></tr><tr><td>その他</td><td>２件</td></tr></table>
○相談業務の知識向上を図り、様々な場面での相談内容に対応するため、研修会に参加しました。また、障害者就労支援事業所や警察署・税務署・司法書士・保護司等と連携して対応することにより、対象者へ包括的な支援をすることができました。
○関係機関だけでなく、地域から情報提供や相談が上がってくるようになってきていることから、多種多様な専門機関と連携し、地域資源の状況を把握するよう努めました。</td></tr>
</table>

地域福祉 活動計画	基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり 事業名：福祉総合相談事業、コーディネーション力の高い専門職の養成と配置、コーディネーション力の向上、情報が届かない方への情報発信の強化、専門職によるアウトリーチ

＜参考資料＞

年　　度	相談件数
令和５年度	６７件
令和４年度	４４件

Ⅱ．地域福祉事業	１４　生活困窮者自立相談支援事業
事業費総額	１８，４２２，３２０円
財　　源	市受託金、善意銀行預託金、一般財源
事業概要	・市の委託を受けて、生活困窮者自立支援法に基づき、既存の制度では十分に対応できなかった生活保護に至る前の段階の生活困窮者に対し、自立に向けた包括的かつ伴走型の支援を行います。 ・行政や社会福祉法人等の関係機関と連携し、相談者一人ひとりに合ったプランを作成します。 ・ひきこもりについては、県内ひきこもり支援機関や民生委員児童委員協議会等と情報共有し、実態把握に努めるほか、当事者や家族等と意見交換を定期的に行います。 ・善意銀行預託金を活用し、生活困窮者等への緊急かつ一時的な援助物資を整備します。
実施内容・実績	●専門職によるアウトリーチ（他機関との連携） 刑期を終えた後なかなか仕事が決まらず、預貯金を切り崩しながらの生活で困窮している５０歳代の男性がいると保護司の方から相談を受け、対象者の意思確認後、自宅へ訪問し、就労支援を行うこととなりました。 初対面ではお風呂にも入っていなかったため、衛生的な面での声かけから始まり、履歴書の作成指導や、保護司と連携しての求職活動用の衣類等の準備、フードバンク支援等を行った結果、面接４社目にして病院の清掃員として採用されることになり、就労支援に繋げることができました。 ●ひきこもり支援 海草圏域ひきこもり支援担当者会議に参加し、県・市・障害者事業所・就労支援事業所それぞれの役割等を明確にした上で今後も連携していくことを再確認しました。 ●援助物資 善意銀行預託金を活用し、ゴールデンウィーク、年末年始にかかる大型連休に合わせ食料やカイロなどを購入し、生活困窮者等に早急に支援できるように援助物資等を用意しました。 ●新規相談者数　（単位：名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	11	9	11	15	8	30	7	9	5	6	9	8	128

●年齢・性別　（単位：名）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明	合計
男	2	3	8	5	18	13	9	4	0	62
女	0	5	11	15	13	7	8	6	1	66
計	2	8	19	20	31	20	17	10	1	128

●継続支援者推移　（単位：名）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数	27	30	27	35	40	47	49	56	58	62	69	43

●プラン作成件数　（単位：件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	6	4	6	6	2	8	6	8	10	3	0	3	62

地域福祉 活動計画	基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり 事業名：生活困窮者自立支援事業、当事者サロンやグループ支援の推進

＜参考資料＞

年　度	新規相談者数	次年度への継続支援者数	プラン作成件数
令和５年度	１３１名	４７件	５９件
令和４年度	１２２名	１４名	６８件

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１５　生活困窮者家計改善支援事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>４，１３３，８５５円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>市受託金</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・市の委託を受け、生活困窮者自立支援法に基づいた生活困窮者に対し、家計相談、家計再生プランの作成等、家計改善に向けた助言や提案などの支援を行います。
・家計表を作成し、キャッシュフローや家計再生プランの作成などを行い、支援のなかで必要であれば生活福祉資金貸付を斡旋するほか、税滞納の分納相談や法テラスなどの相談窓口にも同行し支援を行います。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>家計に問題を抱える生活困窮者からの相談に応じ、相談者とともに家計の状況を「見える化」し、生活再生に向けた意欲を引き出すほか、家計再建の計画や家計に関する個別のプランを作成するなど、利用者自身の家計管理力を高め、早期に生活が再生されるように支援しました。また、必要に応じ、関係機関に同行するなど、相談者に寄り添い支援しました。

●利用者数１０名（うち新規利用者数１０名）

●年齢・性別　（単位 名）
<table>
<tr><td>年齢</td><td>10代</td><td>20代</td><td>30代</td><td>40代</td><td>50代</td><td>60代</td><td>70代</td><td>80代以上</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>男</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>3</td><td>0</td><td>6</td></tr>
<tr><td>女</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>4</td></tr>
<tr><td>計</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td><td>0</td><td>10</td></tr>
</table>
●相談延べ件数　（単位 件）
<table>
<tr><td>項目</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>電話</td><td>18</td><td>18</td><td>8</td><td>8</td><td>6</td><td>17</td><td>7</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td><td>21</td><td>25</td><td>140</td></tr>
<tr><td>来所</td><td>11</td><td>12</td><td>11</td><td>8</td><td>12</td><td>10</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>8</td><td>13</td><td>12</td><td>129</td></tr>
<tr><td>他機関連携</td><td>13</td><td>10</td><td>12</td><td>4</td><td>1</td><td>14</td><td>10</td><td>3</td><td>3</td><td>21</td><td>30</td><td>28</td><td>149</td></tr>
<tr><td>訪問</td><td>4</td><td>4</td><td>2</td><td>4</td><td>0</td><td>5</td><td>3</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>13</td><td>31</td><td>69</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>16</td><td>14</td><td>30</td><td>40</td><td>28</td><td>25</td><td>25</td><td>21</td><td>8</td><td>7</td><td>8</td><td>6</td><td>228</td></tr>
<tr><td>計</td><td>62</td><td>58</td><td>63</td><td>64</td><td>47</td><td>71</td><td>57</td><td>41</td><td>22</td><td>43</td><td>85</td><td>102</td><td>715</td></tr>
</table>
主な相談内容
・収入や生活費に関すること
・家賃や債務の支払いに関すること
・税金や公共料金等の支払いに関すること</td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　度	利用者数	うち新規利用者数
令和５年度	７名	７名
令和４年度	１４名	８名

Ⅱ．地域福祉事業	１６　地域福祉活動支援事業（生活支援体制整備事業等）
事業費総額	１１，１７２，５０９円
財　　源	市受託金、社協会費、一般財源
事業概要	・市の委託を受け、地域住民を主体とした助け合い・支え合い活動を推進し、高齢者等の日常生活上の困りごとに地域が主体的に取り組む仕組みづくりを支援します。 ・生活支援サービスを担う多様な事業主体と連携するとともに、地域住民のみでは取り組むことが難しい地域ニーズに、ボランティアと協力できるよう支援体制の充実・強化に努めます。 ・生活支援コーディネーターの充実と質の向上のため、研修に参加します。
実施内容・実績	ア　地域福祉活動支援事業（生活支援体制整備事業等）の実施 ●市内全域（第１層）の取り組み 生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体（第１層協議体）会議を年２回開催し、令和５年６月豪雨災害時における取組や移動支援ボランティアの活動状況の報告のほか、各構成員の所属団体の地域活動状況について意見交換を交え共有しました。また、住民主体の助け合い活動を広めるための取り組みの一環として開催した「助け合い社会フォーラム」には 108 名が参加しました。 市民の方の生活を支えるためのサービス・活動等を紹介した「社会資源リスト」を作成したほか、各地区の第２層協議体の活動や、海南市内見守り活動についてまとめたチラシを作成し、地域の助け合い・支え合い活動の啓発を行いました。 ●旧小学校区（第２層）の取り組み（協議体設置地区） 地域において助け合いや支え合いについて協議できる場づくりの推進や地域課題の解決に向け、下記地区（第２層協議体）における話し合いや取り組みを支援しました。 ◆黒江船尾地区（黒江・船尾のかたり場～ムダ話はムダじゃない～） 定例会において地域課題の共有や取り組む内容について協議しました。また、世代間交流や高齢者活躍の場となるよう、小学生が通学路上にある高齢者宅を巡り交流するイベント「ここたいあるこら」を行いました。 ◆日方地区（日方パーク郷土の愛～共助と絆～） 地域の集いの場を紹介する広報誌「みなさんお元気ですか。」を２回発行し、地域活動の意味づけや啓発を行いました。また、小学校と連携してまちあるき等の地域学習を実施しました。 その他、日方地区のことを話し合える場や各団体の顔の見える関係づくりを目指すための日方のかたり場を３回行いました。

	◆内海地区（HiRoBa.com ひろばどっとこむ） 地域住民が気軽に集える場として、地域カフェを実施しました。また、地域カフェでは、地域住民の特技を活かした取組（書道家への看板依頼、お琴の演奏など）を行いました。 ◆冷水地区（しみず見守り隊　①あわせ㋮んなで㋣っと元気に） 地区住民が安心して暮らせるよう、高齢者世帯を中心に見守り・声かけ活動を行いました。また、地域で気軽に買い物ができるよう、引き続き移動販売を誘致し、地区住民にはチラシで周知啓発しました。 その他、皆で元気に集まることを目的に地域食堂を実施しました。 ◆大野地区（あかおた大野～ あんしんあんぜん かっきのある おもいやり たのしい　大野～） 世代間交流や集いの場所となることを目的に、海南高校と企画段階から連携し、「大野だがしカフェ」を開催しました。 ◆亀川地区（亀川ささえ愛） 地域の歴史を知り、地域への愛着を持ってもらうことを目的に、亀川小学校で地区の昔のくらしや道具などについての授業を行ったほか、週一回小学生の下校時の見守り活動を行いました。また、地域住民が気軽に集い交流するとともに地域の新たな担い手発掘する場として、ふれあい・いきいきサロン「いこらカフェかめがわ」の設立・運営を行いました。 ◆巽地区（巽ささえあい） サロンやラジオ体操などの地域活動を把握し、地域活動の充実・強化に向けた情報共有を行ったほか、地区の防災意識向上のため、自治会単位や班単位での話し合いを促進しました。また、地域農園運営についての協議を行いました。 ◆北野上地区（ななさとコミュニティ協議会） 外出支援ボランティアグループ「乗ってって海南」が同地区で活動することに伴い、事前地区アンケート調査の情報共有や活動報告を行いました。また、こども食堂の開設やボランティア活動の促進など、高齢化が進む中での地区の活性化方法について協議しました。 ◆南野上地区（いきいき南野上） 第２層協議体が３月に発足し、地域住民の交流を目的とした地域食堂の運営等について協議を行いました。 ◆下津地区（下津ファミリー） 誰でも気軽に参加できるウォーキングやレクリエーションで楽しんでもらうことを目的に「ふれあいイベント」を開催しました。また、学童保育と協働し、世代間交流を目的として「春のふれあい遠足」を実施しました。さらに、オリジナル冊子の見直しを行い、新しい団体を追加しました。 ◆大東地区（大東ふれ愛プラザ方方） 高齢者の居場所として実施していた体操教室が、令和６年１２月で

	終了し、協議体についても事実上の解体となりました。再度座談会から始め協議体の再設立を目指すこととなりました。 ◆大崎地区（大崎助け合い・支え合い） 各団体の代表が集まって会議を開催し、活動内容の共有を行いました。また、移動支援に関するアンケートを実施し、区内での移動支援の必要性について情報収集を行いました。 ◆塩津地区（塩津ＭＴＳ） 挨拶や声かけなどの見守り活動を行っていくにあたり、対象となる世帯の共有を行いました。また、緊急連絡先の可視化として、「助けてカード」の作成について話し合いました。 ◆加茂第一地区（かもいち） 第２層協議体が６月に発足し、地域の集いの場としてサロンを実施しました。また、世代間交流や新しい居場所づくりを目的に学童保育と協働し、花壇やプランターの花植え体験を実施しました。 ◆仁義地区（いきいき仁義８クラブ） 第２層協議体が７月に発足し、つながりづくりを目的にサロンを実施しました。また、送迎付きサロンを企画し、移動手段のない参加者の送迎を行いました。 ●第２層協議体への活動費の支援 地域福祉の向上と協議体活動の拡充及び促進を図るため、申請のあった第２層協議体 10 団体（黒江・船尾のかたり場、日方パーク郷土の愛、ひろばどっとこむ、しみず見守り隊、あかおた大野、巽ささえあい、亀川ささえ愛、下津ファミリー、かもいち、いきいき仁義８クラブ）に地域福祉活動支援事業助成金を交付しました。 （交付額５００，０００円） ●旧小学校区（第２層）の取り組み（協議体未設置地区） 中野上地区、加茂第二地区においては地域座談会を開催し、地域の現状や参加者の普段の取り組み、今後地域で必要となること等について協議しました。また、地域活動に参加し、地域のキーパーソンの把握に努めました。 イ　社会福祉法人等との連携 市内社会福祉法人等各種施設・団体を訪問し、地域貢献活動についてヒアリング・アンケート調査（16 施設・団体）を行うとともに、地域のニーズに応じた具体的な支援内容について協議し、こども食堂設立に対する金銭的支援など、地域活動とのマッチングを行いました。 地域ケア推進会議や医療・介護連携推進会議に参加し、生活支援体制整備事業の説明、第１層及び第２層協議体の取組説明を行いました。

	ウ　生活支援コーディネーターの充実と質の向上 　県主催の生活支援コーディネーター実践研修会、全社協主催の生活支援コーディネーター研修協議会、県生活支援専門アドバイザー派遣事業を活用した圏域職員研修会など、様々な機会を捉えて生活支援コーディネーターの質の向上に努めました。 エ　地域ニーズへのボランティアの対応 　食を通じて幅広い世代が気軽に集える地域の居場所づくりを行うため、ながみね農業協同組合と協力して「こども食堂ボランティア養成講座」を実施（参加者２１名）し立ち上げ支援を行うとともに、参加された４施設・団体と多様な居場所づくりについて協議しました。 オ　移送サービス提供体制の検討 　県生活支援専門アドバイザー派遣事業を活用し、住民互助による高齢者の外出支援について冷水地区で講習会を行いました。（参加者１３名） 　また、買い物等外出に課題のある方々の支援を行う移動支援ボランティアを養成する運転者講習会を実施しました。（参加者１０名）
地域福祉 活動計画	基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり 事業名：地域福祉活動支援事業(生活支援体制整備事業等)、コミュニティワーカーの配置、社会福祉法人等との連携、生活支援コーディネーターの充実と質の向上、地域ニーズへのボランティアの対応 基本目標３：安心・安全な支え合いのまちづくり 事業名：地域福祉活動支援事業(生活支援体制整備事業等)、移送サービス提供体制の検討

＜主な様子＞

大野だがしカフェ（大野地区）

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>１７　子どもの居場所づくり支援事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>９３，６９３円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>社協会費</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・子どもの居場所づくりや子どもと大人の地域交流の場となるよう、こども食堂等の立ち上げ時の支援を行います。
・学生ボランティアや地域協力者等と学習やレクリエーションを通じて交流する学習支援の継続・拡充を図ります。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●こども食堂の立ち上げの相談があった３か所に対して立ち上げ支援を行いました。
中野上地区･････令和６年４月に１か所立ち上げ
下津地区･･･････令和６年５月に１か所立ち上げ
巽地区･････････令和７年２月に１か所立ち上げ

※日方地区･･･････令和７年度中に３か所立ち上げ予定

●海南高校の学生ボランティアや地域協力者が中心となって、小学生を対象とした学習支援を実施しました。

<table>
<tr><th>実 施 日</th><th>小学生</th><th>学生
ボランティア</th><th>地　域
協力者</th><th>場　所</th></tr>
<tr><td>７月２２日</td><td>１５名</td><td>０名</td><td>２名</td><td>下津保健福祉センター</td></tr>
<tr><td>７月２４日</td><td>１６名</td><td>０名</td><td>２名</td><td>巽コミュニティセンター</td></tr>
<tr><td>７月２６日</td><td>３名</td><td>４名</td><td>０名</td><td>海南保健福祉センター</td></tr>
</table>

●下津地区にて母子の新たな居場所として洋裁教室を実施し、参加した母子と継続的な関わりができるよう支援しました。</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり
事業名：子どもの居場所づくり支援（こども食堂等）</td></tr>
</table>

＜主な様子＞

学習支援

レクリエーション

下津地区の子どもの居場所づくり

＜参考資料＞

年　　度	学習支援実施回数	延べ小学生参加者数	延べ学生ボランティア数
令和５年度	６回	４８名	２０名
令和４年度	４回	１９名	２４名

Ⅱ．地域福祉事業	１８　認知症見守り・啓発事業
事業費総額	―
財　　源	―
事業概要	・認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを目的とした認知症支援ネットワーク会議等に参加し、認知症理解と啓発に努めます。
実施内容・実績	●認知症支援ネットワーク会議 令和７年３月１７日に開催された認知症支援ネットワーク会議に参加し、海南医師会、海南市、海南医療センター、海南市社会福祉協議会、介護事業所における認知症関連事業の取り組み状況を共有し、今後の取り組みを協議しました。 ●海南海草 SOS ネットワーク連絡会議 令和６年６月２７日に開催された海南海草SOSネットワーク連絡会議に参加し、海南警察署等との協力体制について確認し、緊急一時保護事例や紀美野町・海南市の取組状況を共有することで、認知症高齢者等への対応や関わり方の知識を深めました。 ●海南市キャラバンメイト会議 令和６年４月１１日、８月８日、９月１２日に開催された海南市キャラバンメイト会議に参加し、認知症理解を深めるとともに「認知症サポーター養成講座」を企画し、今後の取り組みを協議しました。 ●認知症サポーターステップアップ講座 令和７年２月２７日に開催された認知症サポーターステップアップ講座に参加し、グループワークを通して認知症の方の対応や関わり方について学び、認知症に対する理解を深めました。 ●安心声かけ訓練 令和７年３月８日に開催された認知症の方への安心声かけ訓練に参加し、認知症の方を発見した時を想定し、声のかけ方や接し方を体験しながら学び、認知症に対する理解を深めました。
地域福祉 活動計画	基本目標３：安心・安全な支え合いのまちづくり 事業名：認知症見守り・啓発事業

<table>
<tr><td>Ⅱ.地域福祉事業</td><td>１９　福祉サービス利用援助事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>１２，５４５，１８２円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>県社協受託金、県社協補助金、市補助金、一般財源、その他（利用料）</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・県社会福祉協議会の委託を受けて、判断能力が不十分な高齢者や知的障害、精神障害のある方などが安心して日常生活が送れるように、福祉サービスの利用援助や日常生活上の手続き援助、日常的な金銭管理、書類等の預かりなどの支援を行います。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>判断能力が不十分な方が、安心して日常生活が送れるように、定期的に訪問し、福祉サービスの利用や暮らしに必要な金銭の出し入れの手伝いを行うほか、福祉サービス以外の日常生活上の手続きについても、相談や情報提供を含め、できる範囲で支援を行いました。
●利用状況
<table>
<tr><th></th><th>高 齢 者</th><th>知的障害者</th><th>精神障害者</th><th>そ の 他</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td>令和５年度末利者数</td><td>１４名</td><td>１４名</td><td>２３名</td><td>４名</td><td>５５名</td></tr>
<tr><td>新規利用者数</td><td>４名</td><td>２名</td><td>３名</td><td>０名</td><td>９名</td></tr>
<tr><td>小　　計</td><td>１８名</td><td>１６名</td><td>２６名</td><td>４名</td><td>６４名</td></tr>
<tr><td>契約終了者数</td><td>５名</td><td>０名</td><td>１名</td><td>１名</td><td>７名</td></tr>
<tr><td>令和６年度末利用者数</td><td>１３名</td><td>１６名</td><td>２５名</td><td>３名</td><td>５７名</td></tr>
</table>
●サービス利用相談状況
<table>
<tr><th></th><th>高 齢 者</th><th>知的障害者</th><th>精神障害者</th><th>そ の 他</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td>相談件数</td><td>７件</td><td>３件</td><td>２件</td><td>０件</td><td>１２件</td></tr>
</table>
本事業の利用が適当でない方については、行政、関係機関等と連携し必要なサービスが受けられるよう支援を行いました。</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり
事業名：福祉サービス利用援助事業</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

	高 齢 者	知的障害者	精神障害者	そ の 他	合　計
令和４年度末利用者数	１４名	１５名	２４名	４名	５７名

Ⅱ.地域福祉事業	２０　中核機関（権利擁護センター）設置準備事業
事業費総額	５，５５３，２６８円
財　　源	市委託金
事業概要	中核機関（権利擁護センター）設置に向け、行政とともに制度の普及・啓発活動、相談体制の構築、関係機関との連携を進める。 三士会（弁護士、司法書士、社会福祉士）との連携・調整、ケアマネ会・施設部会への広報活動、実施要綱の策定、広報チラシ等の作成、支援調整会議・地域協議会委員の選任等を行う。
実施内容・実績	認知症や知的障害、精神障害によって判断能力が不十分な方の相談に対し、行政と高齢者・障がい者相談機関、その他地域の関係機関に加え、弁護士、司法書士、社会福祉士などの専門職が連携し支援することを目的に、権利擁護センター『ここあす』を開設しました。 ●開設日　令和７年３月２１日（金） また、主に相談援助職を対象とした勉強会を開催し、権利擁護センター（中核機関）及び、成年後見制度の理解促進に努めました。 ●勉強会等の開催状況 第１回　令和６年６月２４日 内　　容：成年後見制度について 主な対象：介護支援専門員　出席者：42 名 第２回　令和６年１０月２２日 内　　容：成年後見制度について 主な対象：相談支援機関（障害）　出席者：8 名 第３回　令和６年１１月１１日 内　　容：成年後見制度について、中核機関の役割について 主な対象：弁護士、司法書士、社会福祉士、介護支援専門員、 自立支援協議会等 出 席 者：４６名 第４回　令和７年３月５日 内　　容：成年後見制度事例検討会 主な対象：介護支援専門員、相談支援機関（障害）等 出 席 者：２９名
地域福祉 活動計画	計画外 （基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり）

＜参考＞

『ここあす』の由来

『ここあす』は、個々の悩みを明日（未来）につなげるという意味が込められています。

相談者が抱える悩みや、思いは人それぞれ違うものです。住み慣れた地域で安心して暮らせるよう一人ひとりの思いや希望、個性を大切にしたサポートを行います。

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>２１　生活資金貸付事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>３９０，０００円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>貸付基金</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・災害や疾病、その他の事情により生活に困窮をきたした世帯に対し生活資金の貸付と必要な相談支援を行い、経済的自立の助長と生活意欲の向上を図ります。

<table><tr><th>貸付申込限度額</th><th>据置期間</th><th>償還期間</th></tr><tr><td>１世帯につき
上限７０，０００円</td><td>最長６か月</td><td>最長２年以内</td></tr></table>
・貸付後も、随時状況確認を行い、自立に向け継続的に適切な支援を行うことで滞納者を増やさないよう努めるとともに、滞納者をリストアップし、臨戸訪問や督促などにより償還率の向上を図ります。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>自立相談支援窓口と連携し、貸付が必要な方の早期発見に努めるとともに貸付後も随時状況確認を行い、自立に向け継続的に支援を行いました。

●資金貸付状況
<table><tr><th>件　数</th><th>貸付金額</th><th>償還率（※）</th></tr><tr><td>８件</td><td>３９０，０００円</td><td>４７．１％</td></tr></table>
※① 令和 6 年度の貸付金の総額 969,000 円
② ①のうち償還猶予額 186,000 円
③ 令和 6 年度中の償還済額 369,000 円
④ 償還不能による免除額 0 円
償還率（%）＝（③/(①－②－④)）×100</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり
事業名：資金貸付事業（生活資金）</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　　度	件　数	貸付金額	償還率
令和５年度	５件	３５０，０００円	２９．７％
令和４年度	８件	１６０，０００円	２４．８％

<table>
<tr><td>Ⅱ．地域福祉事業</td><td>２２　生活福祉資金貸付事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>８，４９２，２１２円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>県社協受託金、一般財源</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・県社会福祉協議会の委託を受け、低所得者世帯、高齢者世帯又は障害者世帯に対して資金を貸し付けて生活を経済的に支えるとともに、社会参加の促進を図ります。
・生活福祉資金特例貸付の償還が滞る世帯に対して状況確認を行い、生活に困窮している世帯は生活困窮者自立相談支援事業等につなげます。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●生活福祉資金貸付
低所得者、高齢者、障害者の方々が安定した生活を営むために、また、世帯の生計中心者の失業等により生計の維持が困難となった世帯への援助施策として、次のとおり生活福祉資金貸付事業を実施しました。
<table>
<tr><th colspan="2">貸付種類</th><th>件数</th><th>貸付金額</th></tr>
<tr><td>福祉資金</td><td>福祉費</td><td>６件</td><td>１，０１７，４２０円</td></tr>
<tr><td colspan="2">合　　計</td><td>６件</td><td>１，０１７，４２０円</td></tr>
</table>
●コロナ特例貸付
生活福祉資金特例貸付で関わった世帯に対して状況把握を行い、引き続き生活に困窮している世帯については、生活困窮者自立相談支援窓口と連携しフォローアップ支援を行いました。また、１８歳未満の子どもがいるご家庭(転出・世帯分離等は除く)にお米３ｋｇを配布し、その際生活状況の聞き取りを行うなど近況の把握に努めました。
<table>
<tr><td rowspan="3">対象
３６世帯</td><td>２３世帯が
受け取る</td><td rowspan="3">○お米の値段が高騰しているなか、お米の配布は喜んでいただいた。

○お米の配布のため、対象者と接触した際に近況を伺うなどし、状況に応じ生活困窮者自立相談支援窓口と連携し支援を行いました。</td></tr>
<tr><td>７世帯が不要</td></tr>
<tr><td>６世帯が連絡
取れず</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標２：市民の困りごとを受け止める総合相談体制づくり
事業名：資金貸付事業（生活福祉資金）</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

年　　度	生活福祉資金貸付	
令和５年度	３件	９５３，０００円
令和４年度	３件	２２５，０３０円

<table>
<tr><td>Ⅲ．在宅福祉事業</td><td>１　いきいき介護予防事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>１７，９５６，７６１円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>市受託金、一般財源</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・市の委託を受けて、高齢者の自立的生活を助長するとともに、利用者相互のふれあいと交流を深め、健康の保持及び増進を図ります。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>下津保健福祉センターにおいて、検温や血圧などの健康チェック、いきいき百歳体操、介護予防教室（健康体操）、外出交流、レクリエーション、カラオケ、入浴、給食、送迎等のサービスを提供しました。
（開所日数：２２９日）
<table>
<tr><td>延べ利用者数</td><td>男　性</td><td>女　性</td><td>合　計</td></tr>
<tr><td>フリーデイ</td><td>８０３名</td><td>８１１名</td><td>１，６１４名</td></tr>
<tr><td>健 康 体 操</td><td>４７名</td><td>３０７名</td><td>３５４名</td></tr>
<tr><td>地　区　等</td><td>４７４名</td><td>１，２７５名</td><td>１，７４９名</td></tr>
<tr><td>合　計</td><td>１，３２４名</td><td>２，３９３名</td><td>３，７１７名</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td rowspan="2">実利用者数</td><td>男　性</td><td>女　性</td><td>合　計</td></tr>
<tr><td>８３名</td><td>２２１名</td><td>３０４名</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜主な様子＞

外出交流

＜参考資料＞

年　度	延べ利用者数			実利用者数			開所日数
	男性	女性	合計	男性	女性	合計	
令和５年度	1,145 名	2,042 名	3,187 名	82 名	200 名	282 名	227 日
令和４年度	875 名	1,611 名	2,486 名	83 名	196 名	279 名	217 日

<table>
<tr><td>Ⅳ．その他の関連事業</td><td>１　共同募金運動</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>４４３，３５５円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>共同募金事務費</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・地域福祉活動の財源となる赤い羽根共同募金を広く募集するため、運動期間（１０月１日～翌年３月３１日）に戸別、街頭、職域、店頭等の各種募金運動を実施します。
・共同募金協力型自動販売機の設置を進めます。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●共同募金
自治会、海南市、民生委員・児童委員及びボランティアの協力を得て、共同募金運動を実施しました。
<table>
<tr><th>目 標 額</th><th>実 績 額</th><th>達 成 率</th></tr>
<tr><td>８，６１５，０００円</td><td>６，９９７，６００円</td><td>８１．２％</td></tr>
</table>
《実績額内訳》
<table>
<tr><td>戸別募金</td><td>５，５４０，４６８円</td></tr>
<tr><td>街頭募金</td><td>１５４，５２２円</td></tr>
<tr><td>職域募金</td><td>６７０，６３７円</td></tr>
<tr><td>個人募金</td><td>１５，４１０円</td></tr>
<tr><td>店頭募金</td><td>１２，６１２円</td></tr>
<tr><td>県共募受入れ募金</td><td>６０３，９５１円</td></tr>
<tr><td>合　　計</td><td>６，９９７，６００円</td></tr>
</table>
街頭募金について、オークワ３店舗、松源３店舗、とれたて広場、海南駅に加え、新たに道の駅海南サクアスのご協力をいただき、市内９カ所で実施しました。

●共同募金協力型自動販売機
売上げの一部が共同募金に寄付される共同募金協力型自動販売機について広報紙に掲載し、周知及び設置の呼びかけを行いました。（累計５台）</td></tr>
<tr><td>地域福祉
活動計画</td><td>基本目標１：助け合い・支え合える地域コミュニティづくり
事業名：共同募金事業</td></tr>
</table>

＜主な様子＞

街頭募金

＜参考資料＞

年　度	目 標 額	実 績 額	達成率
令和５年度	８，６１５，０００円	７，０１６，３８６円	８１．４％
令和４年度	８，６１５，０００円	７，２７６，６０６円	８４．５％

年　度	自動販売機設置台数（累計）
令和５年度	７台
令和４年度	７台

<table>
<tr><td>Ⅳ．その他の関連事業</td><td>２　赤十字活動資金事業</td></tr>
<tr><td>事業費総額</td><td>２３１，２００円</td></tr>
<tr><td>財　　源</td><td>日本赤十字事務費</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td>・地震や台風などの自然災害や紛争､病気などに対する国内外での復興支援、救済活動、また救急法に基づく応急手当の知識と技術の普及などを行うため、赤十字活動資金を募集（５月１日～５月３１日）します。</td></tr>
<tr><td>実施内容・実績</td><td>●赤十字活動資金
自治会、海南市及び赤十字奉仕団の協力を得て、赤十字活動資金の募集を実施しました。
<table>
<tr><th>目 標 額</th><th>実 績 額</th><th>達成率</th></tr>
<tr><td>６，６２０，０００円</td><td>５，８１０，４５５円</td><td>８７．８％</td></tr>
</table>
●義援金
災害により被災された方々を支援するための義援金の受付を行い、日本赤十字社へ全額送金しました。
<table>
<tr><th>名　称</th><th>金　額</th></tr>
<tr><td>令和６年能登半島地震災害義援金</td><td>５１０，９９５円</td></tr>
<tr><td>令和６年７月２５日からの大雨災害義援金</td><td>６，２８６円</td></tr>
<tr><td>令和６年９月能登半島大雨災害義援金</td><td>３８，９８２円</td></tr>
<tr><td>令和６年沖縄県北部豪雨災害義援金</td><td>３，３０７円</td></tr>
<tr><td>令和７年大船渡赤崎町林野火災義援金</td><td>４，４５６円</td></tr>
</table>
●救援金
海外において災害により被災された方々の救助活動等に使用するための救援金の受付を行い、日本赤十字社へ全額送金しました。
<table>
<tr><th>名　称</th><th>金　額</th></tr>
<tr><td>２０２４年台湾東部沖地震救援金</td><td>１４，４８０円</td></tr>
<tr><td>レバノン人道危機救援金</td><td>３，４０５円</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>地域福祉活動計画</td><td>計画外</td></tr>
</table>

＜参考資料＞

赤十字活動資金

年　度	目 標 額	実 績 額	達成率
令和５年度	７，１３０，０００円	６，０１５，５１３円	８４．４％
令和４年度	７，１６０，０００円	６，２９７，０７２円	８７．９％